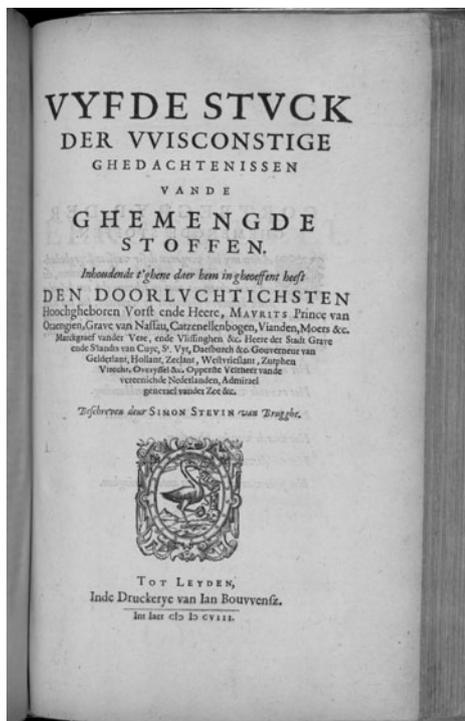
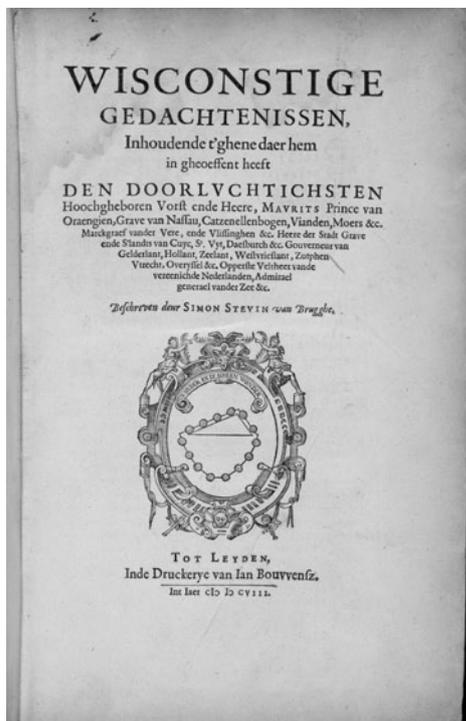


貴重書紹介

シモン・ステヴィン『数学覚書』(1605-1608年)

ともおか すすむ
友岡 賛
(商学部教授)



『スママ』(1494年), 『新しい手引き』(1543年),
そして、ここに紹介される『数学覚書』(1605-1608
年)をもって「会計史上の三大貴重書」と呼ぶこと
もできよう。

2012年の10月に丸善日本橋店にて開催された第24
回慶應義塾図書館貴重書展示会は「ルカ・パチョー
リの『スママ』から福澤へ」と題して会計史関係の
貴重書をもって行われたが、その際、監修者を務め
ることとなったボクは「従来の蔵書に加えて、この
際だから」ということで「欲しいものリスト」、す
なわち新規に購入したい貴重書のリストを作成し、
いくつかの書店に探索を依頼した。そのリストは発
見の難度によって三つのレベルに分けられ、最高難
度の「ダメもと」レベルに挙げられたのがいずれも
オランダ語で書かれたジャン・イムピンの『新しい
手引き』とシモン・ステヴィンの『数学覚書』であ
った。しかしながら、「ダメもと」はやはり「ダメ」で、
結局、発見にはいたらず、ただし、幸いにして「準

ダメもと」レベルの一冊が発見され、それを購入、
出展することができた。『数学覚書』のフランス語
版([141X@147@1])であった。

ところが、翌2013年の6月、「なんで、いま頃になっ
て」という感じで発見された「ダメもと」は「50年
に一度の出物」ともされる稀覯本で、ルカ・パチョー
リの『スママ』([141X@76@1])にも匹敵する本書、
すなわち『数学覚書』のオランダ語版であった。「1
年前だったら、よかったのに」という溜め息まじり
の声も聞かれるなか、しかも、近年、緊縮財政の慶
應義塾ゆえ、稀少性ととも、むろん、価格も『ス
ママ』に匹敵する本書の購入にはなかなか難しいと
ころもあったとはいえ、慶應の会計書コレクション
における重要性が認められ、めでたく購入の運びと
なった。

会計史上、近代会計の成立プロセスを辿る道筋の
一つに「14・5世紀イタリア→16・7世紀ネーデル
ラント→18・9世紀イギリス」というものがある。

この道筋を構成する「14・5世紀イタリア」、「16・7世紀ネーデルラント」、「18・9世紀イギリス」は、そのいずれにおいても、会計史上の重要事を見ることができ、すなわち、14・5世紀イタリアには「複式簿記の成立」、16・7世紀ネーデルラントには「期間計算の成立」、18・9世紀イギリスには「発生主義の成立」を見ることができ、これらが19世紀のうちに近代会計を形成する。そうしたなか、この『数学覚書』は「16・7世紀ネーデルラント」の書であって、会計史上はまずは「期間計算の成立」にかかわる。

会計史において16・7世紀は複式簿記の伝播と期間計算の成立の時代、その中心舞台はネーデルラントであった。14・5世紀、商業、芸術の黄金期イタリアに成立をみた複式簿記は16・7世紀、これも商業、芸術の黄金期ネーデルラントへと向かうが、そうした複式簿記の伝播において先駆をなしたのはルカ・パチョーリの『スママ』であった。複式簿記について述べた最古の書、として知られる『スママ』の意義は、しかし、複式簿記の伝播の媒体としての貢献にこそあった。

他方、期間計算の成立は『新しい手引き』と『数学覚書』のなかにこれを確認することができる。

アントウェルペンの商人ジャン・イムピンの『新しい手引き』は『スママ』やこれに後続するイタリア簿記書の影響を少なからず受けているが、未販売商品を独立の項目として扱っている点などは従前の

書にはない特徴的な点として注目され、また、この点にこそ期間計算の存在が看取される。

オラニエ公マウリッツの家庭教師や同公付きの財務長官の任にあった科学者シモン・ステヴィンの『数学覚書』は、タイトルに「君主マウリッツ閣下が学ばれたるものを収録」との記述があるように、ステヴィンがオラニエ公に教授した事柄からなり、5部構成の第5部において簿記を扱っている。本書の簿記は商業簿記と王侯簿記からなり、また、後者は領土簿記と特別財政簿記からなるが、いずれにおいても、ステヴィンはイタリア式簿記、すなわち複式簿記をオラニエ公に推奨している。簿記書としての本書は一般には「期間損益計算の確立を確固たるものとした著作として……『スママ』と並び称される」（渡邊、82頁）などとされているが、他方、「Stevin自身が……むしろ「領土簿記」においてこそ複式簿記が適合し必要とされると主張することに注目せねばならない」（橋本、20頁）と指摘し、複式簿記の公会計への応用を示している点にその意義を認める向きもある。

(請求番号) [141X@153@1]

参考文献

- 橋本武久『ネーデルラント簿記史論』同文館出版、2008年
渡邊泉「複式簿記の伝播と近代化」千葉準一、中野常男（編）『会計と会計学の歴史』中央経済社、2012年

